ケチュア語の接辞(II)

青木 芳夫*, アンヘリカ・パロミーノ=青木**

Los Sufijos del Idioma Quechua: Segunda Parte

Yoshio Aoki y Angélica Palomino de Aoki

- (要 旨)-

本稿は、本誌前号所収の拙稿「ケチュア語の接辞」の続編に当たる。前稿では、これまで他の品詞と結合した形でしか収録されてこなかったケチュア語の接辞をアルファベット順に整理し、例文を付して簡潔な説明を加えたが、人称ごとに異なる接辞が対応するようなグループは説明から除外した。本稿では、それらの接辞群、つまり動詞の語尾、人称代名詞の所有格や目的格に相当する接辞を紹介したい。

I はじめに

本稿は、本誌前号所収の拙稿「ケチュア語の接辞」の続編に当たる。前稿では、これまで他の品詞と結合した形でしか収録されてこなかったケチュア語の接辞をアルファベット順に整理し、例文を付して簡潔な説明を加えたが、人称ごとに異なる接辞が対応するようなグループは説明から除外した。本稿では、それらの接辞群、つまり動詞の語尾(「主語活用接辞」)、人称代名詞の所有格(「人称所有接辞」)や目的格に相当する接辞(「代名詞的接辞」)を紹介したい。

なお、本稿もまた、前稿と同じく、ケチュア諸語の中のペルー・クスコ地方の現在のケチュア語を例にとっていることと、ケチュア語の表記については1975年10月にペルー政府により制定された正書法(教育大臣令第4023~75号)にほぼ準拠していることを確認しておく。

Ⅱ 動詞の語尾に相当する接辞

ケチュア語の場合、動詞の不定形はふつう動詞の語幹に-Yを接続することによって表わされる。例えば、「話す」という動詞の不定形は「RIMA-Y」である。そしてこの語尾の部分には、以下の通り、人称・数・時制・法等に応じて異なる接辞(「主語活用接辞」)が対応してくる。なお、参考のため、現在形(Aa)には主語人称代名詞を併記する。

(A) 時制

a. 現在

私は話す	NOQA RIMA-NI
君は話す	QAN RIMA-NKI
彼は話す	PAY RIMA-N
私たちは話す(排他的『)	NOQAYKU RIMA-YKU
私たちは話す(包括的り)	NOQANCHIS RIMA-NCHIS
君たちは話す	QANKUNA RIMA-NKICHIS
彼らは話す	PAYKUNA RIMA-NKU

〈例文〉

- Noqa¹ qheswa²-ta³ rima⁴-ni⁵.
 (私は¹⁵、ケチュア語²を*話し⁴ます⁵。)
- ② Paykuna¹-pas² allin³-ta⁴ rima⁵-nku⁵. (彼ら¹⁴も³、上手³に⁴話し⁵ます。)
- ③ Noqayku¹-qa² orqo³-man⁴ ri⁵-yku⁵. Qan¹, may⁵-man⁰ ri¹o-nki¹¹? (私たち¹は²、山⁵へ⁴行き⁵ます⁵。君は¹、どこ³へ⁵行きいます¹゚か?)

ケチュア語の場合、「主語活用接辞」から主語の人称等を判断することが出来るので、ふつう主語人称代名詞は省略される。例えば、例文①の場合、主語人称代名詞「Noqa」を省略することが出来る。ただし、「君でも彼でもなく、この私が」というニュアンスを表現したいのであれば、例文③のように、「話題を提示する」ための接辞「-QA」[前稿参照]を接続すること。

なお、ケチュア語の現在時制は、単に習慣的行為やものごとの存在・状態についての現在だけでなく、肯定文や否定文では現在完了していることを表わすことがあるので、前後の文脈に 注意する必要がある。

〈例文〉

- ① "Kachi¹-ta² apa³-ranki⁴-chu⁵?""Arī³, apa⁻-ni³."
 (「あなたは⁴塩¹を³持っていき³ました⁴か⁵?」「はい⁵、私は³持っていき¹ました⁵。」)
- ② "Papa¹-ta² mikhu³-ranki¹-ña⁵-chu⁵?""Mana⁻-raq³ mikhu³-niº-chu¹¹."

 (「あなたは¹もう⁵ジャガイモ¹を²食べ³ました⁴か⁵?」「私は¹⁰まだ⁵食べて゚はいませんケ⁻¹。」

b. 過去

ケチュア語の過去時制には、4種類のものを考えることが出来る。つまり、単純過去、伝聞過去、習慣的過去、および習慣的過去の伝聞形である。まず、単純過去から見ることにしよう。単純過去はふつう「完了過去[®] (pasado perfecto)」と呼ばれるように、すでに終了したことがらを表現するためのものである。

私は話した	RIMA-RANI	私たちは話した	(排他的)	RIMA-RAYKU
		私たちは話した	(包括的)	RIMA-RANCHIS
君は話した	RIMA-RANKI	君たちは話した		RIMA-RANKICHIS
彼は話した	RIMA-RAN	彼らは話した		RIMA-RANKU

〈例文〉

- Noqa¹-qa² ch' uñu³-ta⁴ mikhu⁵-rani⁶.
 (私¹゚゚は²、凍結乾燥ジャガイモ³を⁴食べჼましたჼ。)
- ② Paykuna¹-qa² Qosqo³-pi⁴ qheswa⁵-ta⁴ yacha²-ranku⁴. (彼ら¹゚゚は²、クスコ³で⁴ケチュア語⁵を⁵勉強し⁻ました゚。)

単純過去形と現在形を比較すれば、単純過去形は「-RA+現在形」であることが分かる。 つまり、-RAを過去の時制を表わす接辞と見做すことも出来よう。なお、-RAの代わりに -RQAという形をとる場合があるが、意味はまったく同じである。

ケチュア語の二番目の過去形は伝聞過去形(「pasado reportativo」)であり、「過去完了形(pasado pluscuamperfecto)」とも呼ばれ、-RAないし-RQAの代わりに-SQAという形をとる。ただし、下表のとおり、三人称の語尾が一部脱落している。

-RA(-RQA)を伴う単純過去形が、話し手が直接体験したことがらを表現するのに対して、-SQAのほうの伝聞過去形は話し手が直接は体験しなかったことを表現する。例えば、他人からの伝聞によるとか、あるいは話し手本人の体験であるにせよ、幼かったり、夢の中だったり、泥酔のために無自覚の状態であったとかの場合である。より厳密に言えば、話し手が他人から聞いて初めて知ったことを表わす。また、推量・伝聞の接辞「-SI/-S」と併用し、話し手側の不確かさを表わすことも出来る。例文を参照のこと。

	単 参	t	複	数
一人称	RIMA-SQANI	(排他的)	RIMA-SG	QAYKU
"		(包括的)	RIMA-SG	QANCHIS
二人称	RIMA-SQANI	KI	RIMA-SG	ANKICHIS
三人称	RIMA-SQA		RIMA-SC	QAKU

- ① Kay¹-pi²-pas³ Ainu⁴-runa⁶-kuna⁶-qa² qasi⁶-ta⁰ kawsaႪ-sqakuჀ. (当地¹で²も³、アイヌ'人⁵達゚が²、平和ঙた゚暮らしてႪいたというჀ。)
- ② Yachachiq¹-ni²-nchis³-qa⁴ onqo⁵-sqa⁴.
 (私たちの³先生¹が⁴病気に⁵なったそうだ⁵。/病気になったんだって。)
- ③ Machasqa¹ imaymana²-ta³ rima⁴-sqa⁵-ni⁶.
 (私は°酔っ払って¹、いろんなこと²を³話し⁴たそうだ⁵⁵。)
- Mosqoy¹-ni²-y³-pi⁴ amigu⁵-y⁵-kuna⁻-qa⁵ noqa⁵-manta¹ rima¹¹-sha¹²-sqaku¹³.
 Karta¹⁴-qa¹⁶ chaya¹⁶-mu¹⁻-nqa¹⁶.

(私の*夢¹の中で⁴、私のჼ友ჼ達′が私゚のことを¹º話し¹¹ていた¹ਣ¹³。手紙⁴が⁵、当地に¹²着く¹⁵だろう¹³。)

⑤ Mama¹-y²-qa³ Qosqo⁴-pi⁵-s⁵ tayta²-y²-wan⁰ reqsi⁰-naku¹-sqaku¹².
(私の²母¹は³、クスコ⁴で*私の⁰父¹と⁰知り⁰合っ¹¹たのですって¹²⁰。)

このように、「-RA(-RQA)」形と「-SQA」形とは、基本的には単純過去か伝聞過去か、という意味上の相違である。スペイン語で書かれた文法書では、完了過去(pasado perfecto)に対する過去完了(pasado pluscuamperfecto)として紹介される場合が多いが、これは誤解を生みやすい表現でもある。ケチュア語は、スペイン語よりも、同じ膠着語の仲間である日本語で考えたほうが理解しやすいことが多々あるようだ。

三番目の過去形は習慣的過去(pasado habitual)で、「……したものだ」という日本語文のような意味になる。下表のとおり、一Qを接続した動詞とKAY動詞の現在形とを組み合わせることにより作ることが出来る。なお、KAY動詞の単純過去形(「--RA」形)が使用されることもある。

	東	数		複	数	
一人称	RIMA-Q	KA-NI	(排他的)	RIMA-Q	KA-YK	U
"			(包括的)	RIMA-Q	KA-NO	HIS
二人称	RIMA-Q	KA-NKI		RIMA-Q	KA-NI	CICHIS
三人称	RIMA-Q			RIMA-Q	KA-NF	K U
				(またはR	IMA-QF	(U)

〈例文〉

- Noqa¹ hamu²-q³ ka⁴-ni⁵.
 (私は¹⁵、よく³**たものです³⁴⁵。)
- ② Tayta¹-y²-wan³ sara⁴-ta⁵ tarpu⁴-q² kara⁴-yku⁴.
 (私の²父¹と一緒に³、私[たち]ぱトウモロコシ⁴を⁵よく³播いた⁵ものです⁻⁴³。)

最後の四番目の過去形は習慣的過去の伝聞形(pasado habitual pluscuamperfecto)で、「……したものだったそうだ」という日本語文に相当する。下表のとおり、KAY動詞の現在形ないし単純過去形の代わりに伝聞過去形を使用する。

	東	数			数
一人称	RIMA-Q	KASQANI	(排他的)	RIMA-Q	KASQAYKU
"			(包括的)	RIMA-Q	KASQANCHIS
二人称	RIMA-Q	KASQANKI		RIMA-Q	KASQANKICHIS
三人称	RIMA-Q	KASQA		RIMA-Q	KASQAKU

- ① Wawa¹-cha² kasha³-spa⁴-y⁵-qa⁵ allinta' waqa⁵-q⁰ kasqaʰ-niʰ.
 (私が⁵赤ちゃん¹²だった³ときた⁴は⁵、私はʰよく'泣いた⁵もの⁰だったそうです⁵゚┅゚゚。)
- ② Kay¹-pi²-qa³ trigu⁴-qa⁵ mana⁶ ruru²-q⁶-chu⁰ kasqaၿ. (ここ¹で²はゥ、小麦⁴はゥ実らァなかゥったುものゥだそうですポゥ・ュ₀。)

c. 未来

私は話すだろう	RIMA-SAQ	私たちは話すだろう	(排他的) RIMA-SAQKU
		私たちは話すだろう	(包括的) RIMA-SUN
		"	RIMA-SUNCHIS
君は話すだろう	RIMA-NKI	君たちは話すだろう	RIMA-NKICHIS
彼は話すだろう	RIMA-NQA	彼らは話すだろう	RIMA-NQAKU

〈例文〉

- Para¹-nqa²-chá³.
 (雨が降る¹でしょう²⁻³。)
- ② Noqa¹-pas² qheswa³-ta⁴ yacha⁵-saq⁴.
 (私¹も²ケチュア語³を'勉強'しよう'。)
- ③ Yachaywasi¹-man² chaki³-pi⁴ ri⁵-sunchis⁴.
 (私たちは、学校¹へ²徒歩³で⁴行き⁴ましょう⁵。)

(B) 法

a. 直接法

前節(A)で説明してきたものが、通常の陳述を表わす直接法 (modo indicativo) である。

b. 条件法

条件法(modo condicional)とは、ある行為の実現可能性ないし不可能性を示すための法であり、接続法(modo subjuntivo)とか可能法(modo potencial)とか呼ばれる。この法には未来と過去の二種があり、単純条件法(simple)と複合条件法(compuesto)と呼ばれたり、あるいは不完了過去時制(preterito imperfecto)と過去完了時制(preterito pluscuamperfecto)に分類されたりすることもある。

条件法未来は、原則として「動詞語幹+直説法現在の活用接辞+-MAN」で表わされるが、 人称によっては例外的な形の接辞や短縮形のほうがよく使用されるようになっている。

私は話すのだが RIMA-Y-MAN	私たち(排他的)は話す	すのだが RIMA-YKU-MAN
	私たち(包括的)は話す	すのだが RIMA-SWAN
	"	RIMA-SUN-MAN
	"	RIMA-SUNCHIS-MAN
君は話すのだが RIMA-WAQ	君たちは話すのだが	RIMA-WAQCHIS
<pre>// (RIMA-NKI-MAN)</pre>	<i>"</i> .	(RIMA-NKICHIS-MAN)
彼は話すのだが RIMA-N-MAN	彼らは話すのだが	RIMA-NKU-MAN

- ① Mana¹ para²-qti³-n⁴-qa⁵ beisbol⁴-ta⁻ puklla⁴-sun⁴-man¹. (雨が降ら²な¹ければ⁵⁵、私たちは*野球⁵を⁻する゚のに⁵¹¹。)
- ② Qolqe'-y² ka³-n⁴-man⁵, allin⁵-ta¹ mikhu⁵-y-ºman™.
 (私は、私の²お金が¹ [それが⁴] あれ³ば、たくさん⁵食べ⁵られるのに⁵™。)
- ③ Yaw¹, unu²-ta¹ apa⁴-mu⁵-waq⁴-chu¹? (ねえ¹、水²を³持って⁴きて⁴くれないかい⁴²?)

④ Mana¹ apa²-mu³-y⁴-man⁵-chu⁴.
(私は、持って³きて³やれないよ¹⁵⁵。)

条件法過去は、条件法未来形に、KAY動詞の三人称単数の過去形「KA-RA-N」(ないし「KA-RQA-N」)を付加することによって作ることが出来る。表は省略する。
〈例文〉

- ① Mana¹ para²-qti³-n⁴-qa⁵ beisbol⁴-ta¹ puklla⁴-sun⁴-man¹⁰ karan¹¹.

 (雨が降ら²な¹かったならば³⁵、私たちは⁵野球⁵を¹する゚のだった¹゚が⁵⁻⁰。)
- ② Qolqe'-y² ka³-n⁴-man⁵ karan⁵, liwru²-ta⁵ ranti³-y¹-man¹ karan¹².

 (私は¹⁰、私の²お金が¹ [それが⁴] あ³ったならば⁵⁵、本²を³買³った¹²のだが¹⁰⁻¹。)
- ③ Sara¹-ta² tarpu³-sun⁴-man⁵ karan!⁶
 (私たちは、トウモロコシ¹を²播いて³おればよかった⁴⁵⁶!)
- ④ Qheswa¹-ta² yacha³-waq⁴ karan⁵!(君は、ケチュア語'を²勉強して³おくべきだった⁴⁵!)

c. 命令法

命令法(modo imperativo)には二人称に対する直接命令法と三人称に対する間接命令法とがあり、下表の通り、動詞の語幹にそれぞれの接辞を接続させることにより作ることが出来る。命令だけでなく、願望を表わすこともある。

君が話しなさい	RIMA-Y
君たちが話しなさい	RIMA-YCHIS
彼が話すように、[言いなさい]	RIMA-CHUN
彼らが話すように[言いなさい]	RIMA-CHUNKU

〈例文〉

- Unu¹-ta² apa³-mu⁴-wa⁵-y⁵.
 (私だ*水¹を²持って³き⁴なさい⁵。)
- ② Pisi¹-pisi²-manta³ yacha⁴-chu⁵-nku⁴. (彼らが少し¹²づつ³勉強する⁴ように⁴[言ってください]。)

(C) その他

すべての時制、すべての法をつうじて進行形 (aspecto progresivo) が存在するが、これは接辞「-SHA」を付加することにより、作ることが出来る。詳しくは前稿の-SHAの項を参照のこと。

III 人称代名詞の所有格に相当する接辞

所有接辞としては、名詞・代名詞に接続する-PA (ないし-Q) [前稿参照]が存在するが、それ以外に「人称代名詞の所有格」に相当する接辞群が存在する。それらは以下の通りである。

私の	- Y	私たちの (排他的)	-YKU
		私たちの (包括的)	-NCHIS
君の	-NKI	君たちの	-NKICHIS
彼の	-N	彼らの	-NKU

(A) これらの接辞は、名詞に接続する場合、文字通り、その所有者が誰かを表わす。なお、「名詞ないし代名詞プラス-PA(ないし-Q)」と併用される場合がある。また、三人称の形態(-Nないし-NKU) は人物だけでなく、動物・植物・自然等、あらゆるものを受けることが出来る。

〈例文〉

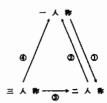
- ① wasi¹-y²
 (私の²家¹)
- ② Kay¹-qa² noqa³-q⁴ wasi⁵-y⁴-mi².
 (確かた²、これ¹が²私の³⁴⁴ѕ家⁵です。)
- ③ Pay¹-pa² wasi³-n⁴-pi⁵ noqa⁶ llank'a⁻-ni⁶.
 (私は⁵⁻⁰、彼の¹⁻²⁴家³で⁵働きます⁻⁻⁰。)
- ④ Asnu¹-q² uña³-n⁴-qa⁵ yana⁵.(ロバ¹の²⁴子³は⁵、黒い⁵。)
- ⑤ Huk' kuntur²-qa² orqo⁴-q⁵ hawa⁴-n²-ta² phawa³-shaԽ-n¹.
 (一羽の¹コンドル²が、山⁴の⁵ [その²] 上⁵を翱んで³います┗¹¹。)
- (B) しかし、これらの接辞が動名詞句(動詞語幹+-NA+当該接辞+-PAQ)等の中で使用され、従属節を形成する場合、その動詞の主語(行為者)を表わすことになる。ただし、接辞「-QTI」ないし「-SPA」と従属節を形成する場合、当該接辞は「-QTI」ないし「-SPA」の前ではなく、後に位置する 9 。

〈例文〉

- ① Qhatu¹(-man²) ri³-ru⁴-na⁵-y⁴-kama' wawa⁵-y⁴-taʰ qhawaʰ-sha¤-nkiʰ!
 (私が⁵市場¹へ²行っている³⁴⁵間′、あなたはኴ私の⁰赤ちゃん⁵をኴ見て┅いて垺下さい»!)
- ② Japones¹-kuna²-qa² llank' a⁴-na⁵-nku⁴-paq² kawsa³-nku⁴. (日本人¹たち²は³⁰、 [彼らは⁵] 働く⁴⁵ために″生き⁵ます⁵。)
- ③ Yanapari¹-wa²-na³-yki⁴-rayku⁵-qa⁴ mañayusqa²-yki⁴-yá⁴ asnu¹⁰-y¹¹-ta¹².
 (あなたが⁴私を³手伝ってくれる¹なら⁵ば、あなたた⁵私の¹¹ロパ⁰を¹²お貸ししましょう²とも⁵。)
- Taki¹-qti²-yki³ kusi⁴-ku⁵-ni⁵.
 (あなたが³歌う¹とき²、私は⁶楽しく⁴⁵なる⁵。)
- ⑤ Llank' ana¹ ka²-qti³-n⁴-qa⁵ kay⁴ llaqta²-pi⁵ qhepa²-ku¹⁰-saq¹. (仕事¹が⁴ある²なら³ば⁵、私は¹¹この⁵村²に⁰残ろ⁰¹⁰う¹。)
- ⑥ Mikhuy¹-ta² tuku³-spa⁴-yki⁵-ña⁵ llank'a⁻-q²-qa⁰ ri¹⁰-nki¹¹!
 (あなたは¹¹、 [あなたが⁵] 食事'を²終わって゚しまって゚から'働き⁻に゚ぱ行け¹⁰ばよい¹¹。)

Ⅳ 人称代名詞の目的格に相当する接辞

「人称代名詞の目的格」に相当する接辞群は、ふつう「代名詞的接辞(sufijos pronominales)」とか「移行の接辞(sufijos de transición)」と呼ばれているものである。これらは、前章の人称所有接辞群の例のようには、図表化することが出来ない。しかし、前々章の活用接辞群を「主語活用」の人称接辞と捉え、これに対して当章の「目的格」接辞プラス語尾



接辞を「対象活用」の人称接辞と捉えるならば、直接法現在・過去・未来の3時制を例にとれば⁴⁾、前頁のように図表化することが出来よう。ただし、この現象はすべての人称の間で見られるのではなく、今日では次の四つの事例においてのみである(前頁の図参照)。

主語	→ 目的語	現	在	過	去1	未	来,
一•単	二・単	MUNA-YKI		MUNA-RA-YKI		MUNA-SA-YKI	
一•単	二・複	MUNA-YKICI	HIS	MUNA-RA-YKICHIS		MUNA-SA-Y	KICHIS
一•複3	二・単	MUNA-YKIK	n ·	MUNA-RA-	MUNA-RA-YKIKU		KIKU
一・複	二•複	MUNA-YKIKU'		MUNA-RA-	YKIKU	MUNA-SA-Y	KIKU
二・単	一• 単	MUNA-WA-N	īKI	MUNA-WA-	RA-NKI	MUNA-WA-1	√KI
二・単	一・複	MUNA-WA-N	īKI	MUNA-WA-	RA-NKIKU	MUNA-WA-1	NKI.
二•複	一・東	MUNA-WA-N	IKICHIS	MUNA-WA-	RA-NKICHIS	MUNA-WA-1	NKICHIS
二・複	一・複	MUNA-WA-N	IKICHIS	MUNA-WA-	RA-NKIKU	MUNA-WA-NKICHIS	
三・単	二・単	MUNA-SU-NKI		MUNA-RA-SU-NKI		MUNA-SU-NKI	
三・単	二・複	MUNA-SU-NKICHIS		MUNA-RA-SU-NKICHIS		MUNA-SU-NIKICHIS	
三・複	二・単	MUNA-SU-N	KIKU	MUNA-RA-SU-NKIKU		MUNA-SU-NKIKU	
三・複	二・複	MUNA-SU-N	KICHIS	MUNA-RA-SU-NKICHIS		MUNA-SU-NKICHIS	
三・単	• 单	MUNA-WA-N	1	MUNA-WA-	RA-N	MUNA-WA-1	NQA
三・単	一•複•包	MUNA-WA-1	ICHIS	MUNA-WA-	RA-NCHIS	MUNA-WA-	SU-NCHIS
	"					MUNA-WA-	SUN
三・単	一•複•排	MUNA-WA-NKU		MUNA-WA-	RA-NKU	MUNA-WA-1	NQAKU
三・複	一•単	MUNA-WA-1	I KU	MUNA-WA-	RA-NKU	MUNA-WA-1	NQAKU
三・複	一•複• 包	MUNA-WA-1	ICHIS	MUNA-WA-	RA-NCHIS	MUNA-WA-SU-NCHIS	
三・複	一•複•排	MUNA-WA-1	IKU	MUNA-WA-	RA-NKU	MUNA-WA-1	NQAKU

- (社)1. 過去時制では「-RA」の代わりに「-RQA」を使用することも出来る。
 - 2. 一人称の未来時制では「-SA」の代わりに「-SQA」を使用することが出来る。
 - 3. 「一・複」は、但し書きのないかぎり、排他的一人称複数を意味する。
 - 4. 同形の場合は、ふつう前後の文脈から判断するが、特に必要な場合は、例えばこの事例では「QANKUNA-MAN」を補足することにより、「君に」ではなく、「君たちに」であることを明確にすることも出来よう。

- Tukuy¹ sonqo²-y³-wan⁴ muna⁵-ku⁵-yki².
 (私の³心²のすべて¹により⁴ [=心の底から]、私は君を¹愛します⁴⁵⁵⁵。)
- ② Noriko¹-qa² japones³-ta⁴ yachachi⁵-wa⁴-ra²-n³.
 (のり子さん¹が²、私に⁶日本語³を⁴教えて⁵くれました⁻⁻⁰。)

③ Paykuna¹-qa² t'anta³-ta⁴ apa⁵-mu⁵-sunkichis².
(彼ら¹が²、あなた方に²パン³を⁴持って⁵くる⁵でしょう²。)

なお、この接辞群は、例文①のように直接目的語や、例文②・③のように間接目的語を示す だけでなく、受益者や被害者など関係者一般を示す場合がある。

〈例文〉

- Ch'isi¹ awila²-y³-qa⁴ wañu⁵-pu⁴-wa²-n³.
 (昨夜¹、私の³祖母²が⁴私に¹ [=私を残して] 死んで⁵しまい⁵ました⁵。)
- ② Pedro'-qa² P' isaq³-ta¹ t' anta⁵-man⁶ ri²-pu⁶-wa⁶-ra¹⁰-n¹.
 (ペドロ¹は²、ピサク⁵へ私[のため]に゚パン⁵を⁶[買いに、あるいは取りに]行ってアーー゚くれました¹ロ・¹1。)
- ③ Awila¹-y²-qa³ onqo⁴-pu⁵-wa⁴-sha²-n⁴.
 (私の² [大好きな⁴] おばあちゃん¹が³病気になって⁴⁵いる¹のです⁴。)

また、上のような図表化からも推量できるとおり、一人称の「-WA」を除いて、これら人 称代名詞の目的格に相当する接辞は、動詞の語尾を示す接辞から分離することは不可能になっ ている。ただし、例えばクシワマン [Cusihuamán G. 1976: 164-165] は次のような考え方、 つまり「受け手=客体のマーカー」という考え方を提示している。

- (i) 一人称が受け手であるときのマーカー……-WA
- (ii a) 二人称が受け手であるときのマーカー 一人称が行為者=主体であるとき………-KI
- (ii b) 二人称が受け手であるときのマーカー 三人称が行為者=主体であるとき………-NKI
- (iii) 三人称が受け手であるときのマーカー……ゼロ(なし)

そして(ii a)の場合、「行為者=主体が一人称であること」のマーカー「-Y」と結合することにより、図表中の「-YKI」が生まれる。また同様にして、(ii b)の場合、「行為者=主体が三人称であること」のマーカー「-SU」と結合することにより、図表中の「-SUNKI」が生まれるのである。

なお、このような接辞群がなぜ発達してきたのか、普通の対格接辞「-TA」や与格接辞「-MAN」の使用(前稿参照)がなぜ忌避されてきたのかは、非常に興味ぶかい点であるが、確たる解答は得られない。ただし、話し手と聞き手が自分たちのことを直接話題にするとき、「-TA」を使用したならば、モノ扱いされたりモノ扱いしたりする、というニュアンスにケチュア語話者は受け取るようである。「-TA」が使用される事例を強いて挙げるならば、次のような場面が考えられる。

〈文例〉

① "Muna³-ni²." "Ima³-ta⁴?" "Qan⁵-ta⁴."(「[私は²] ほしい³。」「何³を⁴?」「君⁵を⁵。」)

ともあれ、このような接辞群は、いわばケチュア語をもっともケチュア語らしくしている要素の一つなのである。

最後に、筆者である青木芳夫はラテンアメリカ地域研究、特に歴史学が専門であり、またケチュア語を母語とするパロミーノ=青木アンヘリカはベルー・クスコ市のアンデス司牧研究所で数年間第二言語としてのケチュア語会話の講師を努めた経験があるのみである。したがって、

本稿もまた、前稿と同じく、言語学的には物足りない部分、あるいは初歩的な誤りがあるかも しれない⁵。しかしながら、この小論が、一人でも多くの日本語話者がケチュア語を勉強する きっかけとなるならば、筆者らにとって望外の喜びとなるだろう。

【追 記】

【注】

- 1) 排他的一人称複数とは「話し手」側のみの一人称複数であり、これに対して包括的一人称複数とは 「聞き手」側をも含んだ一人称複数である。
- 2) 「不定過去 (pasado indefinido)」と呼ぶ場合もある。例えば、 [IPA n.d.] 参照。
- 3) [青木・パロミーノ=青木 1992: 103-104] 参照。
- 4) すべての法、すべての時制を通じて「対象活用接辞」が存在する。本稿では、紙幅の都合上、省略した。
- 5) 南アメリカ先住民言語について言語学専攻では日本ではまだ唯一の研究者といっていい細川弘明さん の説明[細川 1988] は、本稿執筆上で非常に参考になった。

【参考文献】

青木芳夫、パロミーノ=青木アンヘリカ

1992 「ケチュア語の接辞」『奈良大学紀要』第20号

Cusihuamán G., Antonio

1976 Gramática quechua: Cusco-Collao. Lima, Min. de Educación/IEP.

細川弘明

1988 「ケチュア語族」ほか、『言語学大辞典』第一巻「世界言語編(上)」(亀井孝・河野六郎・ 千葉栄一編著)東京、三省堂。

IPA[Instituto de Pastoral Andina], Equipo de Quechua

n.d. Runasimi: Qosqo Qollaw. 25 lecciones, Cusco, IPA.

パロミーノ=青木アンヘリカ

1988 「アンヘリカの現代ケチュア語入門 (一)」(青木芳夫訳)『資料ラテンアメリカ』第10号、 京都、ラテンアメリカ資料センター。

Soto Ruiz, Clodoaldo

1979 Quechua: Manual de enseñanza Lima, IEP[Instituto de Estudios Peruanos]

Resumen

Este artículo es una continuación de nuestro artículo publicado en el anterior número de esta revista. En el anterior artículo, hemos explicado los sufijos del quechua en forma independiente, no combinada con algún nombre o verbo, y por su orden alfabético. Pero, no hemos dado la explicación suficiente para el grupó de los sufijos que varian según la persona: o sea la conjugación de verbos, los sufijos posesivos de pronombres y los sufijos de transición.

Entonces, en este artículo, tratamos de explicarlos esquematicamente a lo posible.